

私立 千葉経済大学短期大学部

プログラムの名称：キャリアデザインをコアとする修学支援策

プログラム担当者：ビジネスライフ学科 教授・教務部長 飯名 皓作

キーワード

1. フィールド 2. キャリアデザイン 3. 基礎ゼミ 4. 文章表現法
5. ビジネスマナー

1. 大学の概要

千葉経済学園は1933（昭和8）年、「片手に論語・片手に算盤」を掲げ、千葉女子商業学校を創立した。以来、本学園は千葉県の商業教育において中心的な役割を果たし、1968（昭和43）年には短期大学を創設して商経科を開設した。その後1976（昭和51）年には、小学校・幼稚園教諭の養成を目的として初等教育科を設置し、また経営情報科を独立させて、情報化社会に対応する教育・研究にも力を入れ今日に至っている。

本学はまた「地域に開かれた大学」を標榜し、附属施設として都市問題研究所を1975（昭和50）年に設置したり（同研究所は千葉経済大学の創設とともに、同大学に附属する地域総合研究所に発展的に解消した）、千葉市や鎌ヶ谷市の委託を受けて市民への開放講座を実施したり、2002（平成14）年からは大学総合図書館を地域に広く開放したりしてきた。

さらに本学は国際化時代にも対応するため、1994（平成6）年にハワイ大学カウアイ・コミュニティー・カレッジと教育・研究提携を結び、異文化コミュニケーションを介し国際感覚を養う教育の推進にも努めてきた。

本学は2004（平成16）年度、従来の商経科・経営情報科をビジネスライフ学科に、また初等教育科をこども学科に改組し、社会や学生の新たなニーズに対応した教育・研究を積極的に推進することとした。

ビジネスライフ学科では、これまで築いてきた商業教育の実績の上に、変化の激しい時代が求めるビジネス知識とIT時代が要請する高度な情報技術を培い、自らのライフプランを築くことのできる人材の育成に努める。

またこども学科では、誕生から児童期までを視野に入れた人間としての子供の成長を深く理解させ、子供の成長を温かく見守り、その可能性をひらき育てる保育士、幼稚園・小学校教員の養成に努める。

2. 本プログラムの概要

ビジネスライフ学科では、自らの進路に応じて自由に科目選択ができる7つのフィールドからメインフィールドを選ばせている。しかし昨今では「自分は将来何になつたらいいのだろうか」と悩む学生が増えている。

そこで1年次の全員にキャリアデザイン科目を履修させ、自分の夢（キャリアゴール）を見つける方法を探させている。また同時に全員を少人数のクラスに編成し、大学教育を受けるための基礎的技術とビジネス知識やモラルの修養を目的とする基礎ゼミを履修させている。さらにPCを使用する日本語の文章表現法を履修させていく。自分の夢を見つける方法に自信を深めた学生には、選択科目であるインターンシップを履修するよう指導している。

1年次後期から始まる就職活動に合わせて、キャリアデザインでビジネスマナーの講習も行う。また、本学科を巣立った彼らは、果たして自分の夢と合致した道に進んでいるかを卒業生を対象に検証する。

3. 本プログラムの趣旨・目的

(1) 学生支援に対する理念や目標はどのようなものか
21世紀の変化が激しい社会状況に対応していくためには、本学の校是である「良識と創意」に基づき、各種の資格を持ったビジネスへの実務能力と社会常識を身に付けさせ、他人と協調して生活や仕事ができること、すなわち実学と倫理を兼ね備えた人間性の育成、またどのような事態に直面しても、柔軟に対応することのできる行動力や実行力を備えた創造性の豊かな人材の養成に主眼を置いている。

自分の進路に応じた職業の選択と資格取得のために科目選択が自由で、1つの専門性に留まらず、幅広く学ぶことのできるフィールド制を採用し、7つのフィールドからメインフィールドを選ばせる。

事例51 千葉経済大学短期大学部

職業意識の乏しい若者が増大する現状に鑑み、キャリアデザイン科目で自分に向けた仕事や会社の選び方から、人生のキャリアプランの立案を行わせ、自分の夢を見つける方法を履修させる。大学教育を受ける基礎が弱体化している学生の現状を踏まえ、基礎ゼミでノートテイキング・リーディング・プレゼンテーションの基礎的技術や社会常識を学ばせ、またモラルの修養を行う。

社会的経験を重視し、インターンシップで自分の夢を確かめさせる。専門ゼミではキャリアセンターと緊密な連携を行って、学生の夢の実現を支援する。

(2) 学生支援を教育活動や研究活動とどのように関連付けているか

新入生には、まず入学前ガイダンスにおいて7つのフィールドについての概略的説明をした上で、入学後の教務ガイダンスの中で、さらに詳細な説明を行い自らの進むべき各フィールドの性格・教科目並びに担当教員の紹介を行っており、フィールド自体の理解促進に努めている。

また1年次前期に、必修でキャリアデザイン の履修を義務付け、受講者各人のキャリアについての考えをまとめるよう指導し、同時に社会的マナーの定着を図っている。

基礎ゼミは、全教員が担当し、1ゼミ当たり学生数を14名程度とし、個人的指導を容易にしている。学習内容は、今後予想される大学での基本的学習技能の修得を目指し、聞く・読む・書く・話すの各側面にわたり、学生個人への直接的な指導を行っている。加えて、毎回必ず各人からの簡単なスピーチをさせることを通じて、表現力の向上を図っている。

インターンシップの目的は、キャリアデザイン や基礎ゼミでの学習を基礎に、具体的な職場での就業体験をすることである。ここでは事前面接並びに事前指導を受けることはもとより、インターンシップ中における教員による訪問、インターンシップ終了後の事後指導がなされ、参加学生にとっては有意義な個人的指導を得る機会となっている。

後期から始まる専門ゼミ は、学生はすでに半年間の学習体験をしているため、かなりのフィールドに関する知識を持って学習を継続することができる。ここでも社会的マナーが指導される。

2年次生に対しては、4月の授業開始前に教務オリエンテーションを通じて、新たに各ゼミナール担当教員によってゼミナール紹介が行われる。この専門ゼミの選択は、一般授業開始前に学生自らの手によって決定されるが、その決定と時を同じくして各ゼミナール担当者は、新ゼミ員との初の個人面談並びに進路指導を実施することになっている。この段階ではすでに、学生は自らについてのかなりの就業知識を身に付けてきてはいるが、就職先選定等具体的局面で問題ある学生に対しては、各教員はキャリアセンターでの職業選択に係る指導を受けるよう勧めている(図1参照)。

なお、各教科で各種検定試験と結び付きの深いものについては、授業内容そのものが検定試験準備となっているものがある。このうち、日商PC検定試験、経済学検定試験、ファイナンシャル・プランニング試験、簿記検定試験については、課外講座を設け、学生の受験指導を行っている。

これら教育活動にあたっての必要不可欠な課題については、各教員がそのつど与えられた条件の下に当該

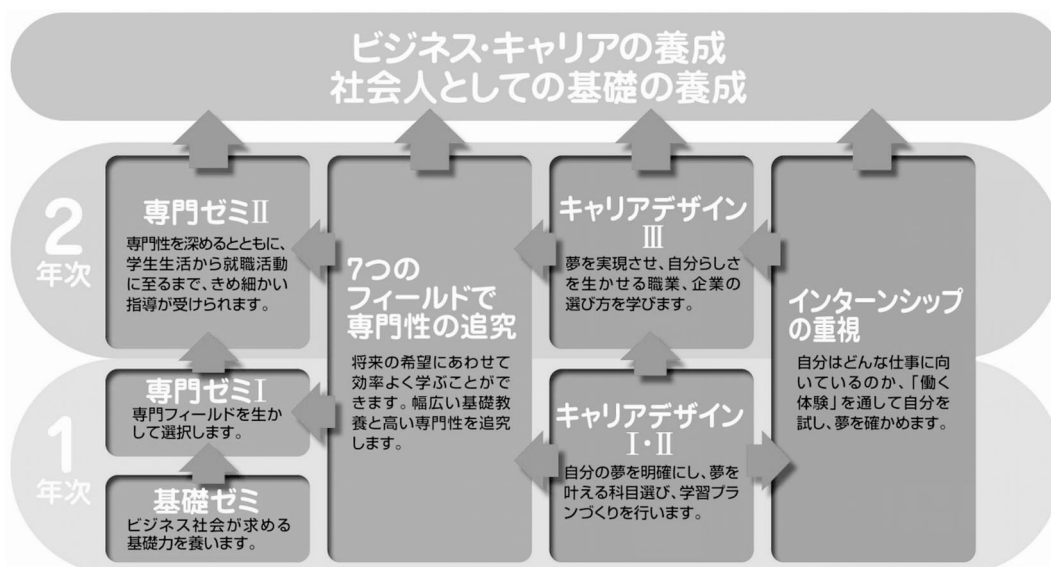


図1 現在の取組の概念図

事項について研究し、実施に移すべきことは言うまでもない。

(3) 本プログラムを実施するに至った動機や背景は何か
 本学は2005(平成17)年度財団法人短期大学基準協会による第三者評価を受け、「適格」と認定された。その評価の中には「ビジネスライフ学科では学生が7つのフィールドの中から自分の進路にあったフィールドを選択できるようになっており、学生の多様なニーズに応える工夫がなされている」とある。これによってそれまでの取組に確信を持ったこと。また受験する学生の多くがフィールド制に大きな関心を寄せ、キャリアデザインに期待していることが動機となっている

(図2参照)

高校時代から将来への夢をしっかりと持っている者でも現代の激しい社会変化の中では、将来大丈夫だろうかと不安に駆られている者がけっこう多く存在する。また自分の夢を持つことができず、ニートのあるいはフリーターのままに卒業していく者も生まれている。これらの学生の不安を解消させ、自分の夢を実現させるためにキャリアデザインをコアとした新たな取組をしようとしたことが背景となっている。

(4) 本プログラムは、大学等において、どのような意義(意味)を持っているか

現代の若者の中には自分の夢への取組が分からず、



図2 フィールドとユニット

また本来の大学教育を受けるにふさわしいだけの基礎知識が不足しており、社会常識に欠けている。さらにITが発達し、それには非常に高い関心を示すにもかかわらず、日本語力に弱点を持っている者たちが少なくない状態にある。

これらの若者たちに新しい取組で自信を与え、自分の夢を実現させることは大きな意義があると判断する。

4. 本プログラムの独自性（工夫されている内容）

（1）新しい発想や独自の創意工夫があるか

キャリアデザインを充実させる。これまでキャリアデザインでは自分の夢を見つける方法を履修させてきたが、現代の若者の弱点であるビジネスマナーの習得に力点を置きたい。

また基礎ゼミで学んだノートテイキング・リーディング・プレゼンテーションの成果の上に立って、1年次生全員にPCを使用した日本語力を習熟させるため文章表現法の科目を履修させる。卒業の際につかんだキャリアゴールが社会に出て果たして通用しているものを卒業生を対象にその検証を行う。

千葉県経営者協会との連携で、企業の求める実践的なビジネスマナー教育を行う。また単なる日本語教育ではなく、企業で直接に役立つビジネス文書要素を加えた文章表現法の履修をさせる。キャリアデザインをコアとしたこれまでの取組を受けて卒業していった者たちへアンケート調査を行い、進路適合度の評価を行う。さらに卒業生を招き座談会を開催して意見集約を行い、今後のプログラムの改善策に役立てる。

（2）他大学等の参考となるか

ニートのあるいはフリーターの学生が存在することは本学だけの独自なものだけでなく、また若者の離職率の高さが問題になっており、他大学にも共通する社会的現象であり、本学の新たな取組は他大学においても十分に適用できる普遍性を持っているものと判断している。

5. 本プログラムの有効性（効果）

（1）本プログラムを通じてどのような効果が期待されるか

キャリアデザイン科目で自分の夢を見つける方法を探させているが、多様な学生が入学してくるため、まず基礎ゼミで大学教育を受けるための基礎であるノートテイキング・リーディング・プレゼンテーションの

3つの技術と社会常識やモラルを学ばせている。

ところが高校の時の授業のように、教師の板書を写すだけの学生、漢字がほとんど読めない学生も存在し、この3つの技術を習得することもおぼつかない学生も存在する。さらにあいさつができない者、研究室にノックせずに入室する者も存在する。このような状況の中でPCを使用して文章表現法を履修させることは、ITに関心度の高い若者をその魅力で惹き付け、日本語力の育成と企業での実践に役立つビジネス知識を身に付けさせるものである。

さらにビジネスマナーでは日常的なモラルの修養に留まらず、企業ですぐに役立つものであり、学生に自信を与え、自分の夢を見つける方法に大きな効果があると考えられる。

卒業生の意見を集約することは、本学科での取組が社会でどのように有用性を発揮しているのかを検証するものであり、問題点を明らかにすることで、さらにその改善に役立つものと考えている。

（2）本プログラムは、現在の学生支援の取組との相乗効果が見込まれるものか

現在取り組まれているキャリアデザイン・基礎ゼミに大きな効果を与えるばかりでなく、ビジネスマナーではインターンシップで得た貴重な社会体験をさらに研くものであり、就職活動や実社会で効果を発揮するものである。

PCを駆使して日本語力が向上すれば、読む・書くなどの基礎的技術が身に付き、自分の基礎学力にも自信が持てるようになり、大学教育に対して主体性を持って積極的に取り組めるようになると考えられ、それは自分の夢を実現させる近道にもなるものと考えている。

（3）社会的ニーズ・学生ニーズとどのように対応しているか

現代では若者にコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力やチャレンジ精神が強く求められている。その社会的ニーズに応えるためにPCを使用した日本語力の育成やインターンシップでの社会的経験を積ませることは、それに対応しようとするものである。またキャリアデザインでのビジネスマナー指導や基礎ゼミ・専門ゼミでの個別指導は企業が若者に求めている主体性・協調性・誠実性・責任感を育成することに十分な役割を果たすことができると考えている。

本学科の学生は現在、文章表現法を選択科目で履修しているが、履修志望者が多すぎて人数制限を行っているほどであり、必修化は十分に学生のニーズに応えるものと考えている。さらにキャリアデザインを通して自

分の夢への実現の道を探させることは、ニートの傾向の強い現代の若者たちへの今日的な課題に応えるものと判断している。

(4) 教育活動や研究活動とどのような関連性があるか
キャリアデザインでのビジネスマナー指導は教科の一環として行うが、1クラス20名前後が望ましいことから、夏休みや春休みを活用しての集中講義形式で行う。文章表現法はPCを使用しての授業であることから、PC機器の関係から1クラス40名を限度として、1年次後期の必修とする。

当学科ではビジネスマーケティング・フィールド内に選択科目として秘書学が開講されているが、ビジネスマナーの指導内容がこれと重複を起こさないように注意する。また文章表現法を身に付けたものがビジネスマーケティング・フィールド内に設けられている選択科目のビジネス文書やプレゼンテーション演習でさらに深めことができるように関連性を重視する。

6. 本プログラムの改善・評価

(1) 本プログラムを実施した後、どのような体制や方法を用いて評価を行う予定か

文章表現法では科目担当教員の評価だけに任せるのではなく、基礎ゼミ委員会と連携して評価を行う。ビジネスマナーは外部講師を招いて行うのであるが、キャリアデザイン担当者とインターンシップ委員会が連携して評価を行う。

卒業生の意見集約については教務部と就職部が合同して評価を行う。

(2) 本プログラムを実施した後、どのような観点について評価を行う予定か

文章表現法ではどれだけビジネス文書検定試験に挑戦することができるようになったかを評価の観点とする。またビジネスマナーは学生がどれだけ就職活動を積極的に行い、内定率を高めることになるかを評価の観点とする。卒業生の意見集約では学科全体のカリキュラムが学生にどのように役立っていたのか、またキャリアデザインが自分の夢を見つける方法に有用であったのか、さらに自分の夢が社会に出て通用できるものであったのかを評価の観点とする。

(3) 評価結果について、どのように活用していくか

文章表現法の成果は基礎的技術を総合的に向上させるものであり、それは大学教育を積極的に受けさせることになり、将来における自分の人生設計の基礎を養うことに活用する。ビジネスマナーの成果は就職率の

向上に役立ち、それを企業での働きぶりに生かして行く。卒業生の意見集約結果は本学科のカリキュラム改善とキャリアデザインの内容改善に役立てる。

7. 本プログラムの実施計画・将来性

(1) 本プログラムを各年度にどのように運用しようとしているのか

2007(平成19)年度の後期から1年次生は就職活動が開始されるので、冬休み・春休みを活用してキャリアデザインの中でビジネスマナーを取り入れていく。

ビジネスライフ学科が設立されて4年目であるが、同学科の卒業生全員に授業がどのように役立ってきたのかをメインにして、学生生活を振り返るアンケート調査を実施する。

2008(平成20)年度は1年次後期にPCを使用した文章表現法を履修させる。冬休み・春休みにビジネスマナーを行う。また1年次生の25%参加を目標にしたインターンシップを実施する。卒業生のアンケート結果を基に卒業生を招いて年2回の座談会を開催する。

(2) この新たな取組の実施に当たり、どのような組織性を確保するのか

学生支援のためのキャリアデザイン・基礎ゼミ・専門ゼミ・インターンシップ・検定用課外講座、そして新たに文章表現法やビジネスマナーの導入など、さらに同窓会と連携しながら卒業生の意見集約を行うなどプログラムが多岐にわたっている。このため各種委員会や担当者だけに任せると、目的が散漫になる恐れがある。

そこで教務部と就職部は本プログラム推進において車の両輪の役割を果たしていることから、両部の責任者と学科長の3者で構成する委員会を組織する。

この委員会はプログラムの基本方針案を作成し、それに基づいた推進計画の点検や評価を統括するもので、学長の指示や意見を受け、定期的に学科会議へ報告して、全学科員の共通認識を得られるようにする。

(3) 本プログラムの実施に当たり、人的・物的・財政的条件をどの程度整備しているか、もしくは整備しようとしているか

キャリアデザインの授業やビジネスマナーの講習が効果的に行われるようにするため、プロジェクター・DVD・TV・資料提示器・LAN装置を整備する。

またビジネスマナーの外部講師謝金・旅費、文章表現法では専任教員1名では担当しきれないので、非常勤での担当者を確保したい。

事例51 千葉経済大学短期大学部

さらに卒業生へのアンケート実施に伴う経費及びその処理を行うアルバイトの費用、そして卒業生を招くにあたっての交通費とその懇談会での諸経費を考えている。

(4) 補助期間終了後は、どのように展開していく予定なのか、また、評価体制・方法・指標の設定及び当該評価を将来的にどのように反映するのか

本学科のプログラムは学生の夢を実現させることを目的としているものであるから、補助期間終了後も問題点を改善しながら引き続き継続していくものである。補助期間に得た費用の補填は大学当局、後援会・同窓会その他関係機関と協議していきたい。

評価体制としては学長の指示や意見を受け、修学支援のプログラムの点検を行い、定期的に学科会議へ報告し、その推進状況が全学科員の共通認識が得られるようにする統括委員会の役割を重視する。

そして退学率が2006(平成18)年度は6.92%であるが、これを6%以下に減少させ、学生の満足度では60%台にアップさせる。また各種の検定合格者総数を在籍者の60%以上とする。そして就職率は3月の卒業時点までに90%に高めること等の4つの指標を設定したい(表1・表2・表3・表4参照)。

本学科の発足した2004(平成16)年に行った新入生への満足度調査は、授業についての満足度と教師への満足度が衝撃の49.82%と48.71%であり、もちろん全学の最低であった。この屈辱的な結果を二度と繰り返さないことを誓って、学科員が一丸となってカリキュラム改革を行い、その中で現在のプログラムを積み上げてきたものである。

今年度4月の入学者数では初めて定員150名をビジネスライフ学科専願者で確保できた。これはプログラムの成果が受験生にも影響を与えたものと自負している。学生たちの夢の実現に新たな取組はきっと有効性を発揮すると確信しており、そしてその成果は今後の学生確保につなげたい。

表1 ビジネスライフ学科の退学率(%)

	平成17年度		平成18年度	
	在籍数	退学者数	在籍数	退学者数
1年	191	13	189	14
2年	193	10	187	12
小計	384	23	376	26
退学率		5.99%		6.92%

注) 休学を除く

表2 ビジネスライフ学科の学生満足度(%)

年度	学年	入学	授業	教師
平成16年前期	1年	51.72	49.82	48.71
	2年			
平成16年後期	1年	52.05	51.10	50.68
	2年			
平成17年前期	1年	61.08	55.80	52.99
	2年	53.45	50.80	52.68
平成17年後期	1年	60.86	58.29	56.79
	2年	57.30	54.32	57.84
平成18年前期	1年	57.94	54.77	54.97
	2年	61.00	59.93	58.57
平成18年後期	1年	53.67	53.13	55.08
	2年	63.00	61.38	62.50

表3 ビジネスライフ学科の就職率(%)

	就職希望率	内定率	就職率
平成17年	75.60	73.10	55.20
平成18年	87.00	82.10	71.40

注) 就職希望率: 就職希望者 / 卒業者数
内定率: 就職内定者数 / 就職希望者数
就職率: 就職者数 / 卒業者数

表4 ビジネスライフ学科の資格取得者数

	平成17年度	平成18年度
スクーパダイビング	31	24
ファイナンシャルプランナー	3級	5
AFP認定研修修了者		24
ファッションビジネス能力検定	3級	13
ファッション販売能力検定	2級	1
ファッション販売能力検定	3級	28
ファッション色彩能力検定	3級	7
ビジネス文書検定	2級	9
ビジネス文書検定	3級	2
秘書技能検定	1級	1
秘書技能検定	準1級	3
秘書技能検定	2級	61
秘書技能検定	3級	81
簿記検定	3級	10
日商PC検定 文書検定	2級	2
日商PC検定 データ作成	3級	3
日本語文書処理技能検定	2級	1
日本語文書処理技能検定	3級	37
ビジネスコンピューティング検定	3級	6
CCNA		2
SUN JAVA認定資格	SUC-P	1
図書館司書資格		24

選 定 理 由

千葉経済大学短期大学部では、キャリアデザインをコアとする学生修学支援という目標を設定し、この取組の充実のために、かなり具体的に、また組織的に実施しようとしており、キャリアデザインを通して学生自らが夢を実現していく道が、すでに「わかった」という実感を持って探せるようになっている状況に象徴されるように、大きな成果が期待できると思われます。

今回の取組は、そのプロセスが理論的に、また、具体的に明確であり、そこにはかなりの工夫があると言えます。

特に、今後のキャリアデザインを充実させるために、現代の若者の弱点であるビジネスマナーの習得に力点を置く本取組は、当該学生がこの点において潜在的に問題を抱えているという認識から出てきたものであり、これに対して早期解決を目指して積極的に取り組もうとしており、他の大学等に対しても改善の勇気を与えてくれる優れた取組であると言えます。